

K A W A K A M I D A M 2006  
**川上ダム通信** 8月号

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所  
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661(代)  
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

## 技術力を活かし『地元貢献』を！！

～農業土木部会指導者実技研修会を開催～

8月7日(月)、8日(火)の2日間、川上ダム建設所を実施フィールドとした三重県内の高等学校農業土木教職員の「農業土木部会指導者実技研修会」を開催しました。

川上ダム建設所では、「総合的に優れた水のプロ集団として利水者・国民のニーズに応えていきます」との経営思想を基に、我々が長年蓄積した「技術力」を地元の方々のために微力ながらお役に立てたいとの思いから、様々な取り組みを積極的に進めています。今回の研修会も、当建設所が保有する技術力を活用していただくための一つの取り組みとして実施したもので、三重県内の農業土木の学科がある3つの高等学校から計12名の先生方が参加されました。

研修の内容は、道路の設計・施工に関する講義と工事現場での盛土の品質管理の実習、環境保全の取り組みに関する講義と「オオサンショウウオ」の保護池でふ化した幼生の定期計測、ダムの地質調査に関する講義とダムサイト地質調査横坑とボーリングコアの観察実習と、幅広いテーマで、当建設所の職員が講師となり、実習を交えて実施しました。先生方からは、「学校内では体験できない、現場でしかできない内容であった。この研修で得たものを生徒に還元していきたい」との感想をいただきました。

川上ダムという実際にものを造るフィールドで、『見る』、『触る』、『学ぶ』という体験が、今後の先生方の授業等の一助になれば幸いであり、当建設所としても、今回のような外部の方への講義を体験することが、職員のスキルアップと、更なる技術力の向上に繋がるものと確信しています。

【調査設計課 中原忠義】



盛土密度試験



オオサンショウウオの  
幼生計測



講義風景



ボーリングコア観察



横坑観察



主催者挨拶

実 習 風 景

## 三谷祥太さん、川上ダムでピオトープの設計に取り組む！



三谷さん

8月1日(火)～11日(金)の約2週間、国立和歌山工業高等専門学校環境都市工学科から三谷祥太さんが、実習に来られました。

実習内容は、前深瀬川上流におけるピオトープの設計をテーマに文献収集・現地調査・設計などの研修していただきました。

【環境課 北村ゆき子】

### ～実習を終えて～

今回の実習では、学校で授業中に教えてもらうだけではわからない実際の仕事の様子や工事現場を見学することで、ダム建設の重要性や大変さが分かりとても勉強になりました。

【実習生 三谷祥太】



修了証書の授与

## 「説明会を継続して実施してほしい」との強い声

### ～伊賀市支所長事業説明会～



工事現場視察の様子

7月28日(金)に、伊賀市支所長事業説明会が川上ダム建設所で行われました。今回の説明会は、「伊賀市の重要施策である川上ダムについて現状と課題を勉強したい」との依頼を受けて実現したものです。

支所長には、岩倉峡上流部の上野盆地の浸水被害の歴史及び川上ダム建設事業の歩みなどについて説明を行い、意見交換が行われ、その後、現場を視察していただきました。支所長からは、「今後とも、節目節目での事業説明会を継続して実施してほしい」との要望を受けました。

【第二用地課長 芦田哲郎】

## 平成19年度概算要求 今年度比22%増の増額要求

川上ダム建設事業の平成19年度の概算要求については、8月31日(木)に国土交通省から財務省に対して概算要求されました。要求額は18.47億円(今年度15.1億円、今年度比約22%増額)で、水理調査、環境調査などの経費に加えて、地域の重要な生活道路である「付替県道松阪青山線」の19年度中の概成を目指すものです。

今後とも、「淀川水系河川整備計画」の策定など、法手続きが速やかに行われることを願うとともに、ダムの計画内容等が早期に確定し、事業の進捗を図るよう努めてまいります。

【工務課長 北牧正之】

# 1200人がクイズに参加！

8月5日(土)に「桐ヶ丘夏祭り」が伊賀市桐ヶ丘で、8月19(土)には「市民夏のにぎわいフェスタ2006」が伊賀市の中心地で開催されました。川上ダム建設所は『地域の安全・安心を守る川上ダムを理解してもらおう』というテーマで参加し、ブース内には図や写真を用いてダムの効果を説明したパネルを展示しました。パネルを見て解答してもらおうクイズには合わせて約1200人が挑戦して下さいました。クイズを通して川上ダムに関心を持ってもらったり、その役割を知ってもらえたのではないのでしょうか。

【第二用地課 塩飽俊夫】



クイズに答える子どもたち

## 川上ダム建設所職員が講師となり生物調査を実施

7月29日(土)水生生物調査などを通じて郷土の川に親しむイベント「肌で感じる木津川体験」が伊賀市才良の木津川河川敷で行われました。川上ダム建設所からは、三重県などでつくる木津川流域リフレッシュ事業推進協議会から水生生物調査における講師派遣の依頼を受け、3名の職員が参加しました。

はじめに、川上ダム職員が木津川の概要と水生生物調査の方法について説明を行いました。水生生物調査では、川の中の石をひっくり返したり網で水の中をすくったりして、昆虫や魚を探しました。見つけた生物はパレットに入れ、図鑑などで名前を調べた上で、採った水生生物の数やその生物がどのような水質の川に棲んでいるのかなどを発表し合い、参加した親子は木津川への理解を深めていました。

【総務課 武村剛泰】



水生生物調査の説明を行う川上ダム職員



水生生物を探す子どもたち

### 第2回

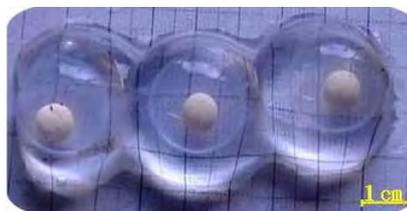
## ちよつとオオサンショウウオ！

### ～オオサンショウウオの卵～

オオサンショウウオは8月下旬から9月上旬にかけて繁殖し、1回に300～600個の卵を巣穴の中に産むとされています。

「オオサンショウウオの卵」って、見たことがありますか？卵ひとつの大きさは、直径およそ3cm。ゼラチン状の球形をしていて、その中に5mmくらいの卵黄があります。それが、まさに“数珠つなぎ”の状態でたくさん産みつけられるのです。

【環境課長 大村朋広】



人工巣穴内の卵の状況

オオサンショウウオの卵

# 川上ダム事業進捗状況の紹介 付替県道松青線第5工区（その5）工事

本工事は急峻な山間部に幅員8mの道路を約240m造るもので、現在山側の掘削作業を行っています。硬い岩盤の掘削は火薬発破と機械掘削を併用して行って、削孔した岩に火薬を詰め、安全用のシートを被せてから爆破して岩盤を小割りします。非常に硬い岩盤も掘り進めることが可能となっています。

本工事は平成19年3月に完了する予定です。作業は安全に配慮して行っていますので、地域の皆様にはご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。  
【工事課 山田英和】



削孔作業の様子

## 連載企画

### 創作『阿保千方湖物語』

#### 《第 話その1 都の水不足》

さてその頃、奈良の都は深刻な水不足に悩まされていました。千方の名声を聞いた朝廷は、解決策を聞くために使者を走らせました。「田畑は干上がり、井戸は涸れ、飲み水もない有り様。このまま、都は滅びてしまうのでしょうか。なにとぞ、良い知恵をお貸しくださいませ」。涙ながらに訴える使者の言葉に、千方は深く同情し、「まことに、ゆゆしき事態。手遅れにならぬうちに策を立てねば。だが、いかように…」と考え込みました。すると側で聞いていた四天王が、「千方どの、これは何としてでもお助けせねば。我らも喜んでお力添えますぞ」と口を揃えました。千方はうなずき、「そなたたちがそう言うならば、よかろう。大変な難題だがお引き受けいたそう」ときっぱり答えました。（つづく）  
[川上ダム建設所編集]

## 命を繋ぐAEDの設置

8月、当建設所の玄関にAED（自動体外式除細動器）を設置しました。AEDは心停止状態の者に対し、電気ショックを与えることで心臓の機能を回復させる装置であり、救急車が到着するまでの救命措置として有効です。非常時には、地域の皆様にも活用していただきたいと思ひます。  
【総務課 恵谷隆伸】



事務所玄関に設置されたAED

## EVENT

### 青山高原のすすき

青山高原は、笠取山を主峰とする標高700m～800mの高原です。9月下旬から11月中旬にかけてススキの群生が美しい風景を見せてくれます。

場所 / 伊賀市青山高原

### 編集後記

8月は水の週間ということで、地域との連携をテーマにイベントに参加してきました。川上ダム建設所では今後もイベントに積極的に参加して、PRしていきたいと思ひます。

[広報誌発行事務局]

編集長 恒吉 徹（川上ダム建設所長）  
デスク 上村 信幸（総務課長）  
" 北牧 正之（工務課長）  
通信記者 武村 剛泰（総務課）  
" 立石 浩行（調査設計課）

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。ハガキやメール等でどしどしお寄せください。